

町指定文化財(史跡)

「大山城跡」

おあやまじょう
指定年月日／昭和四八年一月二〇日
所在地／城里町阿波山
管理・所有者／個人

町指定文化財「大山城跡」は、阿波山内を走る国道二二三号線の西方二〇〇メートルほどに位置しています。

城は、南北二五〇メートル・東西五〇メートル・比高二五メートルほどの「館山」と呼ばれる独立丘陵を利用して造られており、東・南・西側の水田と、西側を流れる桂川が天然の防御施設となっています。

城の中心部は、現在ホテルが建っている丘の上で、南端部には今も堀や土壇が残っています。丘陵の麓部や北西方向に伸びる微高地も防壁上重要な地域であったようで、ここにも堀や土塁が設けられています。

伝承では、平安時代末の長承元(一一三三)年、大掾氏の家臣鈴木五郎高郷が、初めてこの地に城を築いたとされています。大山城が現在のような形に整



▲南西方向から撮影

備拡張されたのは、佐竹義孝が、大山村の領主となった康安(一一三六)年以降のことです。

義孝は、領地の地名をとって大山義孝を名乗り、大山氏の祖となりました。大山氏はその後、九代義則まで二三〇余年の間居城し、佐竹本家に仕えてきました。文禄四(一五九五)年、佐竹領内の領地替えにより、小高城(行方市小高)に移り、大山城は廃城となりました。

問合せ 教育委員会事務局

029-288-3135

俳句

卵割る音ひびきけり秋一人
鯉淵 寿美恵
柿食めり奈良も常陸も日本晴
今瀬 多代美
電波塔真近に仰ぎ芒原
綿引 英子
間引菜の引く菜にさへも迷ひけり
中野 千賀子
台風や閉めし扉を閉め直す
仲田 まちゑ
前向きに真直ぐ生きて冬木の芽
森 静江

両側にコスモス畑ツリーニング
飯村 昭子
敷物を広げ水辺の秋の蝶
竹内 幸子
この町に学校いくつ小春風
瀬谷 博子
田の神も燕も帰り村しずか
田口 勝元
春の海水族館の大はしやぎ
岩下 金司
もう友のいない病室金木犀
寺門 孝子

川柳

セシウムは少し怖いがキノコ採り
富田 多蔵
垂れるのは実ったからと胸を張る
車田 綾子
秋桜は台風までの命かな
飯村 孝一
車飛ぶ夢の話に子等騒ぎ
川原 清



文芸しろさと

短歌

深みゆく秋を覚えて待ちし
日の蒼き夜空に十五夜の月
大森 久子
あぢさゐの返り花ひとつ庭隅
に残し平成の夏も逝きたり
渡辺 千紗子
疾き風に満開の梅ひらひらと
散りて雪のごと小道を染むる
所 美恵子
帰ってくる孫娘にかけむことばさま
ざまに思ひながきて秋の日を待つ
山形 式妙
十三人全員無事の朗報にタイ
國の少年らへ拍手をおくる
杉山 みちこ

山深き友の家訪い一日をす
ごせば時の流れ忘るる
枝 不美
草を刈る人等なき農道に曼珠
沙華咲きて日は暮れてゆく
島 愛子
絵手紙ではじめて気づく柘榴の
棘ていねいに書き仕上がり眺む
信田 育子
平穏なる人の営みに天災はあ
の手この手で襲い来たりぬ
萩谷 登喜子
丈高き吾亦紅風に揺れてを
り暑さやうやく穏しと思ふ
富田 佐智子
交流会笑い楽しい一日を脳
トレ体操長寿につんげ
菌部 光子

母の日に届いた花は花終わり
若芽の青葉生き生きと伸び
富田 欽子

